

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（国 語）

東京都北区立滝野川もみじ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> 平仮名を書くことができても、字形や書き順が定着していない児童がいます。長音・促音・撥音・助詞(は、へ、を)の習得には個人差があります。 音読は、はっきりと大きな声で読むことができる児童が多いです。 話型に沿って自分の考えを話すことは積極的にできます。相手の話を聞き続ける集中力は、まだ不十分です。 読解の問題では、聞かれている事の意味が理解できず、正答にたどり着かない児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> 長音・促音・撥音・助詞を文の中で正しく使うことができるよう、日記等の文章を書く機会を多く作ります。 聞く力を付けるために本の読み聞かせを行ったり、対話の活動を多く取り入れたりして、集中して話を聞く時間を作ります。 聞かれていることを確認してから答える習慣が身に付くよう、練習問題を繰り返し行い、読めば分かるという実感をもたせます。 単元末に、教科書の学習を生かした音読劇や図鑑作り等の活動を行い、活動内容を振り返ることで、次の学習に活かします。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習やモジュール、宿題で、苦手な平仮名、片仮名とその文字を使った言葉を読み返し練習する課題に取り組み、100%の定着を目指します。 ノート指導を丁寧に行い、平仮名や片仮名の習熟を常時行っています。 音読カードを活用し、得意な児童には暗唱にも挑戦させ、苦手な児童にはゆっくりでも正しく読む経験を重ねさせます。 学習用パソコンの学習教材を使って、「は、へ、を」の復習などをさせます。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 言語事項(漢字及び言葉)の定着に課題があります。新出漢字の指導において、字形や筆順指導、読み方に重点を置いて指導していますが、適宜繰り返して指導をし続けることが必要です。 言葉の指導では、文法的事項(主語・述語)を正しく使って文章を書くことを適切に指導していく必要があります。また、段落の意識や文章構成を考えることが身に付いているとはいえません。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の小テストやまとめのテストで目標点を定めて取り組む様に計画します。目標点に達するような手立て(プリントやワークシート)をとります。目標点に達しない児童には再テストに取り組みさせ、達成感を味わわせる指導を行います。 作文や文章を書く学習では、既習の漢字を積極的に使えるように支援します。また段落が分かるように一字下げを必ずするように習慣付けることや主語や述語をはっきりさせ、読み手が分かりやすい文章が書けるように指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業内でのノート指導で主語と述語をはっきりさせた文章が書けるように指導します。また漢字を使うと読み手に意味が伝わりやすいことを指導し、習った漢字を使って文章を書く大切さを繰り返し指導していきます。 朝学習やモジュールの時間を活用して、漢字の学習を行います。また片仮名の定着や片仮名で書く言葉の知識をより広げるために、新聞記事で使われている片仮名語探しなどに取り組みます。 読書活動を充実するために、朝読書や図書で粗筋をつかむことに目を向けさせたり、短い文で感想を書き表す紹介文を書くことに取り組みます。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 物語文や説明文の学習では、基本的な指導事項を押さえた指導を行っています。基礎的な学力が身に付いているので、応用・発展的な学習を取り入れます。 漢字の学習では、書き順や部首を意識させたり、その漢字を使った言葉を集めさせたりしながら、興味・関心を高められるように指導しています。週1回の漢字小テストでは正しく書けている児童が多いですが、学期末のまとめテストや日常の学習の中では正しく使えない児童が多く見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> 物語文や説明文の学習では、言葉の意味を捉えられるように国語辞典を活用して意味調べをさせたり、「まず、つぎに、そして、最後に」などの順序を表す言葉や指示語、中心となる言葉に着目して読み取らせたりします。 国語以外の教科の学習時にも、学習した漢字を使うように声掛けするとともに、机間指導時にノートを見ながら正しい漢字を使っているか確認します。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習した漢字を正しく使えるように、朝学習やモジュールの時間を活用して、繰り返し復習させます。 漢字に触れ、語彙を増やすことができるように、読書時間を確保し、読書カードに読んだ本を記録して、読書活動を充実させます。 毎日、音読の家庭学習に取り組みませ、漢字や文章を読むことに慣れさせます。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習は、新出漢字の小テストを定期的に行い、再テストや直しを丁寧に行うことで定着を図っています。普段から習った漢字を使う習慣を身に付けていくことが課題です。 「書くこと」に関して個人差が大きく、全体の構成や文と文のつながりを考えながら書くことに大きな課題があり、個別の支援が必要です。 「読むこと」に関しては、登場人物の気持ちの変化を想像しながら読むことや、最後まで正確に読むことが課題です。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の小テストやまとめのテストなど、時期と範囲を知らせ、計画的に学習できるようにします。また、目標点を設定し、繰り返し練習させたり、再テスト等を行ったりして、習熟を図っていきます。 「書くこと」に関する授業では、児童同士で読み合う場を設定し、表現のよさや工夫などを助言できるようにします。 文章の構成や接続詞、主語述語、指示語に着目して読み取ることを指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> モジュールの時間を活用して、漢字の学習を中心に取り組みさせます。 読み取る力を伸ばすために、読書時間の確保をし、読書の習慣化を図ります。 音読の家庭学習に取り組みませ、読むことに慣れさせていきます。授業でも音読のテストをしていきます。 国語辞典、漢字辞典、学習用パソコンを活用し、意味の分からない言葉等を自分で調べ、活用していく力を付けます。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習は、新出漢字の学習、ドリルを使つての反復練習と小テストを中心に、年間4～5回目標点を設定しての50問テストを繰り返し行っています。普段から習った漢字を使う習慣を身に付けていくことが課題です。 筆者の主張や要旨をまとめる学習では、キーワードを掴み、200字程度でまとめることを繰り返し指導してきました。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎週1～2回漢字小テストを行います。確かめ時間を設け、十分習得できるようにします。まとめ50問テストでは、目標点を目指し、再テストに取り組みさせます。 筆者の主張や要旨、登場人物の心情や情景など、自分で叙述に立ち返り、読み取る時間を確保します。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や授業初めの時間を使って、漢字に対する興味を高めるために、へんやつくりに着目した漢字の書き取りや、クイズ形式にするなど出題の工夫を行います。 常に手元にマイブックを置き、読書タイムや学習の隙間時間など本を読む機会を増やし、読む習慣を身に付け、自力で読み取る力を伸ばします。 分からない言葉はすぐに国語辞典や漢字辞典、学習用パソコンで調べることを習慣化し、語彙力を高めます。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の学習は、新出漢字の小テストを定期的に行い、再テストや直しを丁寧に行うことで定着を図っています。普段から習った漢字を使う習慣を身に付けていくことが課題です。 説明文も物語文も内容を読み取ることが苦手な児童が多いです。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字小テストを行い、定着を図ります。 漢字テスト以外でも、既習の漢字を書くように指導します。 筆者の主張など何を読み取るかを明確にして読み取らせます。 文章の構成や接続詞、主語述語、指示語に着目して読み取ることを指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> 分からない言葉はすぐに国語辞典や漢字辞典、学習用パソコンで調べることを習慣化し、語彙力を高めます。 読み取る力を伸ばすために、読書時間の確保をし、読書の習慣化を図ります。 朝学習で話を聞いて内容を要約したり、自分の考えを書いたりする活動を取り入れます。 ノートやプリントなど、既習漢字を使うようにさせ、定着を図ります。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社 会）

東京都北区立滝野川もみじ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> 学校の周りや北区の様子について、興味・関心をもって学習に取り組むことができました。 地図の読み取りや資料の読み取りについては個人差が大きく、特に北区の特色を白地図に表した際は、複数の資料を関連付けてまとめられる児童が少なかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> 区役所見学やスーパーマーケット見学等、引き続き、実地的・体験的な学習を多く取り入れます。 地図や資料を読み取る際には、特徴的な部分に着目して読み取ったり、複数の資料を関連付けて読み取ったりできるように丁寧に指導します。 	<ul style="list-style-type: none"> 地図帳を活用して、地図記号や地図の見方について学習し、興味・関心を高めるとともに、地図の見方に慣れるように学習経験を積み重ねていきます。 「北区の歴史 はじめの一步」や「LOVE LIVE LEAD 渋沢栄一」を活用し、北区の歴史や偉人の業績への興味・関心を高めていきます。 資料を配付したり、学習問題を作ったりする際に、学習用パソコンを活用していきます。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や資料集、動画等学習用パソコンを活用し、学習を行っています。単元の終わりには、学習した内容を自分でまとめさせる学習を取り入れていますが、基礎的な知識・技能の定着が十分でない児童が見られ、まとめの内容に大きな差が出ています。 資料を正しく読み取ることや課題にあった資料を選択すること等を授業の中で指導、確認していますが、定着が十分でない児童が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の中で、資料の読み取り方や必要な資料の選択方法など丁寧に取り上げ、友達と交流する活動を通して表現する力や読み取る力を付けさせます。 引き続き思考ツールを活用することで、集めた情報を視覚的に整理させていきます。 学習のまとめを児童自身の言葉でノートに書かせることで、知識・技能の定着を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料集や学習用パソコンを活用し、都道府県や社会科の基礎的用語など、知識の定着を図ります。 地図帳を活用し、都道府県の名前や位置を確認できるようにします。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 教科書や資料集を使って調べるだけでなく、疑問に思ったことや調べたいことを自分で分かりやすくノートや学習用パソコンにまとめて表現する活動を取り入れています。 単元の終わりに、学習した内容をまとめる活動も行いましたが、意欲や資質能力に個人差があり、同じ学習内容でも習得事項に差があるため、調べる情報量やまとめの内容に大きな差が表れています。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習問題の設定や資料の開発・提示方法などを工夫し、学習がより深まり定着するようにします。また、学習のまとめを児童自身の言葉でノートに書かせることで、知識・技能の定着を図ります。 表やグラフ、写真や動画などから読み取ったことや、調べたことをまとめた物を交流することで、友達のよい読み取りやまとめ方を参考にする機会を増やし、表現力を高めていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の単元から発展した内容の写真やグラフ、図表などを掲示し、興味・関心を高めます。また、複数の資料を比べる活動を通して、読み取るべき情報を意欲的に見付けることができるようにしていきます。新聞も活用し、資料の読み取りの練習もしていきます。 授業始めの5分間に、県名や国の名前、大陸、海洋の名前を正確に書けるようにミニテストに取り組みさせます。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 資料を基に考えたことを表現するのが苦手な児童が多いです。 同じ資料でも読み取ることができる情報量に差があります。 学習した内容をまとめる活動では、個人差が大きかったです。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料を読み取る視点を明確にし、資料から読み取った情報を基に考えさせます。 個人でまとめた物を交流することで、友達のよい読み取りやまとめ方を参考にする機会を増やし、表現力を高めていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習用パソコンを活用し、複数の資料を活用します。 複数の資料を比べる活動を通して、読み取るべき情報を的確に見付けることができるようにしていきます。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立滝野川もみじ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・10の合成・分解をすぐに答えられない児童がいます。 ・手指や具体物を操作しないと、たし算・ひき算（繰り上がり・繰り下がりがなし）を正しく計算できない児童がいます。 ・文章問題から問題場面を想像できず、正しく立式できない児童がいます。 ・文章問題に合わせた答えの書き方が正しくできない児童がいます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・10の合成・分解を百玉そろばん等を使って唱えることで「2と8で10」「6と4で10」などの確実な定着を図ります。 ・算数タイムや授業始めの時間に計算カードやミニプリントを行い、計算力を付けます。 ・文章問題は、「聞かれていること、必要な数や言葉」に線を引かせ、問題場面を整理し、具体的に想像させることで正しい立式に導きます。 ・文章問題の「聞かれていること」に正対して答えることができるよう、繰り返し文章問題に取り組ませます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題場面を想像できるように、半具体物や図を用いて考え、理解した上で立式できるようにします。 ・既習事項の掲示物や前時のノートを振り返る習慣を授業内で身に付け、既習事項を生かして学習が繋がっていくことを実感させます。 ・学習のまとめとして、問題作りを行ったり、問題を出し合ったり、実際に測定したりすることで、生活場面と算数の学習をつなげる数学的活動を行います。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・ものさしやますで長さやかさをはかることが難しいと感じる児童が多く見られます。測定器具で測る活動、身の回りのものについての量感を高める指導を入れていく必要があります。 ・繰り上がりや繰り下がりがある計算に苦手意識をもっている児童がいるため、正しく答えが求められるようにしていく必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・三角形や四角形、箱の形の学習では、三角定規を使って、辺の長さや頂点の数、角の形に目を付けて図形の問題解決ができるように指導します。 ・計算カードを利用して、繰り上がりや繰り下がりのある計算、かけ算九九がスムーズに答えを出せるように練習します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・東京ベーシックドリルの補充問題で苦手傾向がある問題を準備し、適宜取り組ませていきます。 ・算数タイムを活用して、20問程度の筆算について時間を決めて解く活動を取り入れ、計算力の向上を図っていきます。 ・文章題を正しく読み取る力を伸ばすために、宿題や朝学習で継続して取り組むようにします。 ・他者の考え方を知って、数学的な見方や考え方を広げているようにします。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・足し算・引き算・かけ算については、学習始めの5分間を使って、繰り返し習熟させ、基本的な計算力が付くように指導しています。 ・文章問題や普段と違う問い方をすると誤答をすることが多いため、問題文を正しく読んで「何を問われているか」を正しく理解する力を付ける必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・足し算・引き算・かけ算については、学習始めの5分間を使って、繰り返し習熟させます。 ・文章問題を解く際には、分かっていること・問われていることを正しく理解できるよう、全体指導と個別指導を適切に使い分けながら、丁寧に学習に取り組ませます。 ・既習事項を確認し、丁寧に押さえながら指導していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数タイムを活用して、学年全体の苦手分野である時刻と時間・表とグラフの内容に関して、丁寧に指導し、繰り返し復習していきます。 ・年3回、算数タイムで東京ベーシックドリルの学力診断テストに取り組ませることで、一人一人の苦手分野を明らかにし、個別最適化した学習に取り組ませます。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章題が苦手な児童が多いため、立式する前に図式化することで題意への理解を深められるように指導しています。 ・「わり算の筆算」では、計算のしかたの理解が不十分な児童が多いため、「立てる・かける・ひく・おろす」をしっかり覚えられるように繰り返し取り組ませます。 ・目盛りの大きさを正しく読みとることを苦手とする児童が多いため、読み取り方を丁寧に確認する必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算問題で間違いやすいポイントを丁寧に押さえます。 ・習熟度に合わせて指導内容を工夫します。児童が自分の考えを書いたり説明し合ったりする活動を取り入れるとともに、学習のまとめや振り返りを自分の言葉で書けるようにします。 ・教科書の補充問題やプリントを活用して、演習問題の充実を図ります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数タイムで東京ベーシックドリル等に取り組み、既習事項のわり算の筆算やくり下がりのある引き算を中心に復習させ、計算力の習熟を図ります。 ・練習問題を解いた後やテスト時に、間違えやすいポイントを押さえながら検算や見直しを行う習慣を付けられるよう、声掛けを行います。 ・コンパス、分度器などの使い方を確認し、「図形」領域の知識・技能の定着を図ります。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・計算力に個人差があり、特にかけ算、わり算を正確に計算することが苦手な児童が多いため、既習事項の確認・反復練習に取り組ませます。 ・文章問題では、文意を理解し正しく数直線に表して立式することができない児童が多いです。繰り返し、数直線に表し立式の根拠を理解して取り組ませる必要があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題では、問題文を正しく読み、数直線に正しく表して、立式の根拠を考えながら問題を解くことを習慣化していきます。 ・授業の最初で既習事項を確認したり、終わりに適応問題に取り組んだりすることで学習の定着を図るようにしています。 ・習熟度に応じて指導内容を確認し、児童が自分の考えを説明し合うことで理解を深められる場を設定していきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数タイムなどで学習用パソコンを活用して既習事項を振り返り、基礎的な知識・技能の定着を図ります。 ・年3回、算数タイムで東京ベーシックドリルの学力診断テストに取り組ませることで、一人一人の苦手分野を明らかにし、個別最適化した学習に取り組ませます。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題の題意を読み取ることが苦手な児童が多く、計算方法は理解できていても立式ができないために問題が解けないことがあります。 ・既習事項が身に付いていないために、問題解決ができないことがあります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章問題を最後までよく読み、数直線などを活用して思考の過程を整理させるようにします。 ・授業の中で既習事項の確認を適宜行います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・算数タイムに基本的な計算問題を行い、学習の定着を図ります。 ・宿題では復習問題を多く取り入れ、既習事項の定着を図ります。 ・年3回、算数タイムで東京ベーシックドリルの学力診断テストに取り組ませることで、一人一人の苦手分野を明らかにし、個別最適化した学習に取り組ませます。

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（理 科）

東京都北区立滝野川もみじ小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充・発展指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> 学習への興味・関心は高く、動植物の観察や器具を使った実験に意欲的に取り組むことができます。 実験方法を考えたり、実験や観察の結果から考察したりする力に課題が見られます。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を作る際には、日常生活で感じたことや疑問等をもとに学習課題を作る授業を展開し、児童の興味・関心をさらに高めています。 考察の方法を丁寧に指導した上で、観察や実験の結果から考察させるとともに、自分の考えと友達の考えを比較させながら、自分の考察について再考する機会を設けます。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験方法や器具の使い方、注意事項を意識させながら、一人一人が実験に取り組めるようにし、理科の基本的な用語、用具の名称、使い方について、学習の経験を積み重ねていきます。 実験や観察の結果から分かったことを、教科書やプリントの問題演習を通して、知識として定着させていきます。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 実験など理科の学習への関心意欲は高いですが、苦手とする分野に対する関心が下がってしまうところが見られたため、動画を活用し興味関心を高める手立てとしています。 問題を解決するために実験方法を考えたり、それらの結果と関連付けて考察したりすることに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習課題を考え解決していく授業を展開し、自分の考えや友達の考えを交流させる時間を確保していきます。 論理的思考の展開ができるよう、ノート指導を丁寧に行っていきます。 はたらきや時間などを関係付けながら調べさせ、科学的な思考力を身に付けさせていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> 理科の用具などを用いた実験に、一人一人が実際に取り組み、経験をすることで、理科の基本的な用語、用具の名称、使い方について定着させます。 単元の終わりに、確認問題に取り組ませ、習熟を図ります。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 実験の前には、自分たちの生活経験や身の回りの出来事を振り返り、問題を立て、予想や実験方法を考えるようにしました。 それぞれが予想、実験方法の根拠、条件を考えるようにしていますが、自分の考えをもつことに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活と関連付けたり動画を見たりして、なぜ実験をするのか必然性をもたせて、主体的に学習に取り組めるようにします。 ノート指導を中心に、考察をノートに書いて交流し合うことで、表現力を高め、自分自身の言葉でまとめられるようにします。 一人一人が観察、実験の目的に応じて器具や機器を選択して正しく扱って調べられるようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 観察、実験の目的に応じて定着を図るために、単元終了後は確認問題やプリント、学習用パソコンの問題に繰り返し取り組ませます。 実験や考察を行った後に、その実験や観察に関わる動画を視聴することで、確実に知識・技能の定着を図ります。
6年	<ul style="list-style-type: none"> 実験器具の名称や正しい使い方の定着が不十分です。 問題を解決するために実験方法を考えたり、それらの結果と関連付けて考察したりすることに課題があります。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験器具の名称や正しい使い方を授業で確認します。 問題解決のために、どのような実験をすればよいかを考える場面を作ります。 問題から予想し、実験を通して得た結果から考察する学習の流れを基本とする授業を展開し、より妥当な考えを作り出すことができますようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> 実験結果の確認や実験ができないとき、正しい実験結果が得られないときには、動画を活用して理解を深めます。